

6月は男女共同参画

推進月間です

男女共同参画社会とは

男性も女性もあらゆる分野で対等に参画する機会が確保され、男女ともに平等に責任を担う社会のことです。

市では、平成28年度に策定した「第3次鹿角市男女共同参画計画」を基に、各種施策を実施して、男女共同参画を進めています。

男女共同参画社会の一層の実現に向け、男女がお互いの立場を理解し、ともに考え、ともに責任を担う社会づくりを推進しましょう。

市民共働課 共働推進班

☎ 30・0202



今年度の主な取り組み

- ① 推進会議の開催
計画を着実に進めるため、関係機関と男女共同参画の推進に関して議論します。
- ② アンケートの実施
市内の高校2年生を対象に、男女共同参画に関するアンケート調査を行います。
- ③ 男女共同参画基礎講座の実施
市内事業所および市民を対象に、講師を招き男女共同参画に係る講座を開催します。
- ④ ワーク・ライフ・バランス優良企業表彰
ワーク・ライフ・バランスについて、優れた取り組みを行っている企業を表彰します。

第3次計画における男女共同参画推進の評価指標

No.	評価指標		平成 30 年度	令和2年度
			実績	目標
1	女性の新規起業・創業件数		6件*	10 件
2	ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいる事業所の割合		75.5%	30.0%
3	男女イキイキ職場宣言事業所数		14 件*	20 件
4	事業所における育児休業取得率	女性	70.6%	90.0%
5		男性	3.3%	10.0%
6	育児のために有給休暇を取得したことがある男性の割合		18.7%	35.0%
7	女性の新規就農者数		11人*	15 人
8	女性消防団員数		30人*	30 人
9	自治会・町内会における女性役員登用率		7.6%	向上
10	市の委員会・審議会等における女性委員登用率		25.5%	30.0%
11	市の委員会・審議会などにおける女性委員がいる審議会等の割合		72.3%	90.0%
12	市内の主な企業における女性役員登用率		25.9%	30.0%
13	市職員の管理・監督職への女性職員登用率		26.2%	30.0%
14	男女の地位が平等になったと感じている人の割合		25.9%	25.0%
15	職場において差別的な扱いを受けたと感じている女性の割合		10.9%	15.0%
16	高校生のデートDVの認知度		76.2%	90.0%
17	認知症サポーター 1 人に対する高齢者数		3.83人	3 人
18	国民健康保険加入者の健康診査受診率		39.2%	60.0%
19	乳がん検診受診率		19.3%	30.0%
20	子宮がん検診受診率		15.3%	30.0%

※の数値は平成 28 年度からの累計値となります。

「仕事」と「生活」の調和に向けて

平成30年度「鹿角市ワーク・ライフ・バランス優良企業表彰」受賞企業を紹介しします

ワーク・ライフ・バランス優良企業表彰

ワーク・ライフ・バランスとは、育児・介護・趣味といった「仕事以外の生活」と「仕事」の調和を図り、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。市では、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて優れた取り組みを行っている企業を表彰しています。

株式会社タカヤ

会社概要

「そこに住み暮らす人々の幸福を感じる暮らしの実現に寄与する」という理念のもと、1933年に時計店として創業しました。以来80年以上、時代や顧客のニーズの変化に対応し続け、現在は眼鏡・補聴器の販売をはじめ幅広く事業を展開しています。

取組紹介

秋田県と「男女イキイキ職場宣言事業所」の協定を締結し、女性の能力活用やワーク・ライフ・バランスの実現に向けて積極的に取り組んでいます。

主な取り組み

- ・社長自らが講師となり、業務効率の改善や育児休業制度などに関する研修や講義を実施
- ・専属の社会保険労務士などから助言を受け、次世代育成支援金制度などの企業内制度を制定
- ・メンタルヘルスやハラスメントなどの相談窓口を設置し、相談しやすい体制を確立
- ・幼い子どもをもつ従業員に向けて、勤務形態の見直しや子の看護休暇制度の活用を呼びかけ

実績と今後の取り組みについて

平成28年度から30年度にかけて女性管理職が5名増加しているほか、平成29年度の有給休暇取得日数が前年より平均1・5日増加するなど、取り組みの成果が表れています。



高谷社長に聞きました

今後も、女性活躍推進法に基づく行動計画の策定や従業員の結婚支援のため、あきた結婚支援センターへの会員登録のほか、各種研修会を実施し、より社員がイキイキと働ける職場を目指します。

Q 受賞した感想は

A. 大変嬉しく思っています。会社や従業員に必要だと思うことはやれる範囲で取り組んでいきたい。そのことが客観的な評価につながり、少し自信を持つことが出来ました。

Q 今後の取り組みについて

A. 市第1号としての受賞ですので、ありがたく思うと同時に責任を感じています。今後も、

Q 最後に一言

A. 働き方改革により、さまざまな企業が求められています。本質が見失われがちだと思います。営利企業であれば売上と利益を最大化させることで従業員や社会に還元し続ける使命があります。働き方改革に関連する諸々の取り組みは、企業がその使命を果たしていくためであること、社員と共有しながら行なうべきなのではないかと思っています。



右：高谷 秀和氏
(株式会社タカヤ代表取締役社長)